

総括答弁（要旨）

3名の代議員の皆さまから、発言をいただきました。

福祉クラブ生協の後藤恵美子代議員からは、「神奈川まるごと健康づくり」「SDGs」「会員生協に役立つ事務局機能」について発言を頂きました。

まず、30周年おめでとうございます。

組合員の「健康づくり」、そして、「住み慣れた街で生活を豊かに健康に老いる」事をめざした活動におけるポイントともなる人づくりについて、「健康チェックサポーター養成講座」や「フォローアップ研修」の開催における県生協連との連携について報告をしていただきました。健康チェックサポーター養成講座の修了者は107名にもなるとのこと。

また、福祉クラブ生協は、創立30周年を迎えましたが、この30年の取り組みを「SDGs：持続可能な開発目標」との関わりで、考え・話し合い、確信を持つことができましたと報告を頂きました。

SDGsが課題としていること、そしてその考えは、生協や協同組合の願いそのものであること、生協を広げ、強めることは、SDGsの実践であることに確信を持ちたいと思います。

さて、高齢になっても障がいを持って、長年住み慣れた地域を離れることなく、地域での人間関係を大切にしながら暮らしつつ、みんなの願いであるこの思いを実現するために、福祉クラブ生協では、助け合いによって地域の最もふさわしい福祉のありようを深め、実践され、その影響は全国にも広がっています。

このような素晴らしい実践が神奈川の仲間の中で行われていることを誇りに思います。

次に、富士フィルム生協の香川享子代議員から、「健康づくり」と「平和活動」の取り組みについて、発言を頂きました。

富士フィルム生協では、「神奈川まるごと健康づくり」を健康チェックと健康チャレンジを柱に取り組みされました。

「第28回富士フィルム生協まつり」における、健康チェック体験イベント企画では、地域の幅広い年齢層の方に、普段はなかなか計測できない、様々な項目について、健康チェックを通じて、自分の生活習慣や健康を見直すよい機会を提供することができ、来場者からは「定期的に健康チェックを受けたい」という声を頂いたそうです。

また、4会場で行われた地域総代懇談会でも、健康講座と健康チェックが実

施され、健康チャレンジの取組みでは、組合員と配送担当者とのコミュニケーションを活発にするツール、つながりをつくるツールとして位置づけで取り組まれたこと、すばらしい取組みです。

健康は共通の願いです。「健康」は、誰とでもつながることができます。

これからも、会員生協の皆さまと歯車をかみ合わせながら、一緒に取り組んでいきます。

ヒバクシャ国際署名について、宅配で核兵器廃絶への賛同を呼びかける署名用紙を年2回配布されたこと、富士フィルム生協まつりをはじめ、約110企画ものイベント開催時にも、署名用紙を持ち込み配布されたことを報告して頂きました。

昨年7月の「みんな浴衣で、七夕アクション」には、職員6名が全員浴衣で参加され、一緒に桜木町で呼びかけてくださいました。

8月のヒロシマ平和スタディツアーでは、富士フィルム生協の3名の子ども達を含めて39名の子どもたちと運営スタッフ22名が広島で、命の尊さ、平和の大切さを感じていただくことができました。

今年もよろしく願いいたします。

生活クラブ生協の桜井薫代議員からは、核兵器廃絶にむけ取り組む思いを発言して頂きました。

生活クラブ生協では、生活クラブ運動グループの仲間である福祉クラブ生協、神奈川ワーカーズコレクティブ連合会と共に、毎年「ヒバクシャ国際署名キックオフ集会」を開催し、被爆者の方々の被爆の実相をお聞きする機会を作ってこられました。17年度は若きキャンペーンリーダーの林田光弘さんから、署名活動の目指すところと、若い世代にも響くメッセージはどうあるべきかを学び、18年度は映画「この世界の片隅に」の上映を通じて、普通の人々の貴重な日常がある日突然奪われ戦争に巻き込まれていくことの恐怖を感じ、今年度はICAN国際運営委員の川崎哲さんのお話を聞かれました。

川崎さんの提起された、「核兵器はなくすことができる。核兵器禁止条約の発効により、核兵器は『力のシンボル』から『恥のシンボル』になる。」、核兵器をなくすのが、次に使われてからなくすのか、それは私たち次第。」「これまでそうだったように、社会は変えることができる」には、私たちが励まされるものです。

来年2020年は核兵器禁止条約が採択されてから初めてのNPT再検討会議であり、NPT成立から50年、ヒロシマ・ナガサキの被爆から75年という節目の年になります。

NPT再検討会議に対して、日本被団協と生協は代表団を合同で派遣します。

神奈川県生協連からも神奈川県原爆被災者の会の皆さまと共に代表団を派遣し、被爆者の方々のサポート、核兵器廃絶を訴える主体的なアピール活動を行います。

被爆者は「ふたたび被爆者をつくるな」として「核兵器の廃絶」を訴え続けてきました。2016年から始めた「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」は、この3月末で941万5,025筆となりました。そのうち、私たちを含めて、神奈川県原爆被災者の会扱いの署名は、45万5,203筆となっています。ありがとうございます。

署名は2020年9月末まで、対話をして広げていきます。より多くの人々へ平和への願いを伝え広げ、署名という形で束ねて、来年、ニューヨークへ派遣される代表団に託したいと思います。

命を大切にし、子どもたちの希望ある未来を願う生協であるからこそ、核兵器廃絶にむけて力を尽くしていきたいと思います。

世界が核兵器をなくすと決める日を、被爆者の皆さまと迎えましょう。

地域社会の課題は、助け合い・支え合い、福祉、医療、健康づくり、居場所づくりです。これはそのまま、私たち生協の課題です。

そして地球規模で考えても、持続可能な地球のためにSDGsが課題としていくこと、そしてその考えは、生協や協同組合の願いと活動そのものであること、生協を広げ、生協を強めること、生協を深めることは、SDGsの実践であることを再度強調して、総括答弁とさせていただきます。

これからもよろしくお願いいたします。